

災害対策チームの活動について -台風 8 号の接近に備えて-

中村俊太郎¹⁾ 田村和幸¹⁾ 谷崎義生²⁾ 美原盤³⁾

1) 脳血管研究所美原記念病院 設備用度課

2) 脳血管研究所美原記念病院 副院長

3) 脳血管研究所美原記念病院 院長

【はじめに】平成 26 年 2 月 15 日に関東地方では記録的な大雪にみまわれた。予想をはるかに越える積雪に対し、十分な事前対策がなされなかったため、その後の対応は混乱を極めた。その経験を踏まえ、災害の被害を最小限に抑えるため、平成 26 年 4 月に災害対策チームを発足した。平成 26 年 7 月 10 日、各地で甚大な被害をもたらした超大型の台風 8 号の接近に伴い、チーム発足後、初の具体的活動を行ったので報告する。

【災害対策チーム】指揮命令系統の責任者を副院長とし、以下事務部長、看護部長、設備用度課長、防火管理者で構成されている。従来、確立されていなかった指揮命令系統を明確にした。

【活動内容】

①群馬県からの警報をもとに災害対策会議を開催した②危機意識の共有のため、院内ホームページと院内メールにて台風 8 号の接近について注意喚起した③各部署において想定される障害と対策について情報収集した④参集可能の職員を確保するため、台風で小学校等が休校した場合は、院内保育園で児童を受け入れることとした⑤停電に備え、自家発電装置と備蓄燃料を確認した。電力確保のため、ポータブル発電機 11 台と燃料 40 リットルを準備した。⑥浸水防止のため、各出入口付近に土嚢を置いた。40 個の土嚢を準備していたが不足したため、あらたに土嚢 20 個を準備した。⑦暴風対策として屋外のベンチ、案内看板などが飛散しないよう撤去または固定した⑧非常時連絡体制の確認した⑨非常食など備蓄品を点検した⑩台風通過後に再度災害対策会議を開催し、今回の対応について検証を行った。

【まとめ】災害の被害を最小限に抑えるためには日頃からの危機意識と迅速な対応が重要である。今回、幸いにも台風は直撃しなかったため防災対策は徒労に終わったが、院内での危機意識の共有と指揮命令系統の確認ができた。今後、各種災害に対応できるよう定期的に会議を重ね、災害の被害を最小限に抑える体制を構築したい。